

## テキストの精読，レジュメ作成及び報告・討論技法の向上

社会科教育講座・松野尾 裕

### 1. 授業科目の概要

#### (1) 開講日と受講者数

開講日：後期・水曜日・4限

受講者数：5人（うち留学生1人）

#### (2) 授業の課題

現代経済思想研究。今日の経済社会の世界的な構造転換のなかで新しい社会システムを模索する国内外のさまざまな試みと，それに関連する理論的・実証的研究を取り上げ，それらに見いだされる思想的特質について考察する。

#### (3) 授業の内容

経済学特論(前期開講)において国連開発計画(UNDP)『人間開発報告 2003』(日本語訳)を講読し，経済学における Human Development 概念，Capability 概念の導入について考察した。それを踏まえて，経済学特論演習では，これらの概念の具体化のひとつとして，ムハマド・ユヌス(バンングラデシュの経済学者，2006年ノーベル平和賞受賞者)によるグラミン・バンクの実践を取り上げ，Economic Development と Human Development との関係性，特に女性のエンパワーメントなどについて，考察を深めた。

使用したテキストは，

(1) 坪井ひろみ『グラミン銀行を知っていますかー 貧困女性の開発と自立支援ー』東洋経済新報社，2006

(2) ムハマド・ユヌス/猪熊弘子訳『貧困のない世界を創るー ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義ー』早川書房，2008

参考文献として，

(3) ムハマド・ユヌス&アラン・ジョリ/猪熊弘子訳『ムハマド・ユヌス自伝ー 貧困なき世界をめざす銀行家ー』早川書房，1998

(4) マーサ・C.ヌスバウム/池本幸生・田口さつき・坪井ひろみ訳『女性と人間開発ー 潜在能力アプローチー』2005

(5) 松井範惇・池本幸生編著『アジアの開発と

貧困ー 可能能力・女性のエンパワーメントと QOLー』明石書店，2006

### 2. 授業構成と成績評価

#### (1) 授業構成

第1回 ガイダンス，テキストの選定

第2回 発表の分担・方法等の策定

第3回 受講生による発表・討論 (1)

第4回 受講生による発表・討論 (2)

第5回 受講生による発表・討論 (3)

第6回 受講生による発表・討論 (4)

第7回 受講生による発表・討論 (5)

第8回 中間の振り返り

第9回 受講生による発表・討論 (6)

第10回 受講生による発表・討論 (7)

第11回 受講生による発表・討論 (8)

第12回 受講生による発表・討論 (9)

第13回 受講生による発表と討論 (10)

第14回 後半の振り返り

第15回 補論・まとめ

10回にわたる発表・討論については，特に，発表にあたっては，テキストの内容を十分に消化したうえで，明快な論点の提示を行うこと，討論にあたっては，発表者の発表意図を理解したうえで，発展的な視点を提示するよう，討論のための事前の準備も行うことを求めた。安易に結論を導くのではなく，さらなる課題を引き出すような創造的な思考を受講生に求めた。

#### (2) 成績評価

毎回の発表時における，発表のための準備状況(参考文献等の活用，レジュメの作成等)，発表の内容・方法上の工夫，討論時における問題提起，応答，発展的視点の提示等と，期末に作成・提出されたレポートの論述内容とを総合して評価した。特に，授業において，授業参加者との対話・討論を意識した授業参加態度が見られたかどうかを成績評価のポイントとした。

### 3. 受講者による授業評価（自由記述）

○後期の授業では、主に『グラミン銀行を知っていますか』という本を読み進めていった。とても読みやすい本だったので、話がはずみ、有意義な授業であった。やはり、難しい本を読むのも大事だが、読みやすい本と二本立てで授業を構成する方が、勉強にもモチベーション的にもいいと思いました。(T)

○この授業を受ける前は、経済学と貧困救助を一つの枠組みとして考えたことはありません。私にとっては、新しい問題です。この授業の内容は、分かりやすく、現実のもとで論じていますから、その貧しい人の像を頭の中ですぐ浮かべることができます。

また、先生の説明が簡単で、すごく分かりやすいです。先生の日本語の発音がはっきりで、きれいですから、ほかの先生の授業より、内容の理解がはやいと思います。(C)

○今年度、経済学特論で学んだことは、僕がイメージしていた経済学とは少し違っていました。でも、経済学を専門に勉強するつもりはなかったもので、よかったです。特に後期にやった、グラミン銀行は楽しかったです。ユヌスさんの自伝等も、時間ができたら読みたいと思います。一年間ありがとうございました。(T)

○1. 前学期は、人間開発報告書 2003 のミレニアム協約、序章～6章を詳しく読むことができた。人間開発指数(HDI)やミレニアム開発目標達成に向けてどんなことが考えられるのか学ぶことができた。

2. 後学期は、人間開発報告書 2003 の 7 章、坪井ひろみ『グラミン銀行を知っていますか』東洋経済新報社、2006、ムハマド・ユヌス/猪熊弘子訳『貧困のない世界を作るー ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義ー』早川書房、2007 を詳しく読み進めることができた。マイクロクレジットやグラミン銀行、バングラデシュの国内状況について理解を深めることができた。

3. 一年を通して、いろいろな視点から経済を考えることができた。松野尾先生からの確かなアドバイスも拝聴することができた。ゼミの他の学生からも考えや感想を発表する時間をとっていただいたので、視野を広げるのに役に立った。

4. 今まで学んだことを修士論文研究にも活かしていけるようにしていきたいと思う。(N)

○一年を通してマイクロクレジットに関する話題が最も興味を持って取り組めた。後期では具体的にグラミン銀行を取り上げ、先生にも説明を付け加えていただき、多くの知識をつけることもできた。ユヌスの考え方等、今後の人生に活かしていきたいと思う。(W)

### 4. 省察と今後の課題

#### (1) 授業を振り返って

テキストを精読するためには、段落構成や句読点、指示代名詞が何を意味しているかなど、文章の隅々にまで意識を向けて内容を正確に把握するよう努めることが求められる。重要な語彙については、関係する参考文献等を利用して、その意味を説明できるようにしておく。翻訳文献の場合には、できる限り原書を用意しておき、翻訳上の疑問などに答えられるように準備しておくべきである。

レジュメの作成にあたっては、まず、テキストの内容を明快・簡潔に記述することが必要である。テキストそのままの引用か、要約したものかを区別し、テキストの頁数を必ず付記する習慣を身に付ける。テキストを精読するなかで参考文献等で調べたことを加え、さらに、発表に際しての論点を提示する。

報告・討論においては、聞き手の聞く態度が発表や討論の意欲に影響するから、とりわけ、メモを取る力や、話者の論点を正しく把握できる「聞く力」を持つことが求められる。

テキストの精読、レジュメの作成、報告・討論という一連の学習作業を、密度の濃いものとしていくためには、やはりその都度、教員からかなり厳しい指導をしていくことが必要である。一定の学習方法を身に付けることは、学習を効率的に進められるだけでなく、成果を実り多いものとすることにもつながるはずである。

#### (2) 今後の課題

大学院の初年時の学習では、「研究」という人の知的営みの意味と方法を、自覚的に把握することが課題になってくる。研究の対象となり得るテーマを発見するためには、一定の学習作業の手法を理解し、身に付けることが必要である。授業を通してその訓練を行おうとするならば、当然、受講生が履修している他の授業との関係を考える必要がある。一授業が受講生にとって過度の負担になる恐れがあるからである。大学院生の研究能力を向上させるために、授業間の関係をどのように作るのかは今後の課題である。